

つどい 議事録

平成 27 年 9 月 29 日 (火)

参加者：小玉氏・渡邊氏・藤村氏・尾崎氏

金田先生・今中氏・岡本氏・植村氏・北嶋氏・藤岡氏

小玉氏 私課題として感じているのは以下の4点。
①引きこもりの人に「家から出てよ」と言っても出てきてくれるものではないため、社会生活ができるように働きかけることが課題となっている。
②子どもの問題に関しては、子ども会がないことが問題。子ども会との連携が必要。
③高齢者の問題に対しては、見守りや支え合いは小地域ネットワークでもされている。自治会でもブロックや班単位で地域の状況を把握できるため、その中で見守りや支え合いができるはず。
④自治会の加入率が低いことも問題。自治会は地域の最小単位であり、ゴミ等の環境問題やまちづくりについて考えていくところであるが、全然加入しない。地域活動をするためには自治会に入るべき。

尾崎氏 緑ヶ丘では自治会加入率 100%である。ここ最近は新築で入ってくる人が多い。しかし、新しい人は「なぜ自治会費を払って掃除をしないといけないのか」と言っている。

小玉氏 こういう問題は班単位で解決できるもの。また、高齢者の元気がないことも問題。健康体操やウォーキングなどの文化活動やシルバー大学のように勉強をすることもいい。また、話すことができる居場所づくりが必要。

【上牧のボランティアについて】

渡邊氏 シルバー大学もわざわざ足を運ぶことは大変であるから、社協が場所を提供して月に1回程度勉強会をするのもいい。町V連で力を入れていきたいのが、上牧のボランティアグループ紹介。上牧のボランティアの窓口は縦割りになっているからそれぞれのボランティアを紹介する場が必要。町として、ボランティアセンターがあると一番いい。

金田先生 上牧のボランティア同士が交流する場はあるのか。

渡邊氏 交流の場はない。ただ、活動する人はほとんど同じ人で様々なグループに重複して活動している。

藤村氏 国の縦割りが小さな上牧でも起こっている。

【シルバー大学について】

尾崎氏 上牧町独自のシルバー大学をつくろう。

小玉氏 シルバー大学の目的は「皆を元気にしよう。」

尾崎氏 大学の講師は、専門家に来てもらうより上牧の人にしてもらう。資格をとるわけではないため、上牧の人に講師として得意なことを教えてもらうのはどうか。

【高齢者支援について】

岡本氏 担い手の高齢化問題が出てきている。同世代でも地域活動をしている人、していない人がある。

小玉氏 それは人生の違い。

渡邊氏 何かひとつすると色々頼まれる。

小玉氏 人と関わると悩みも出てくる。悩むと身体も悪くなるため自分は考えない。

藤村氏 現役のときは仕事に対する気持ちばかり。ワークショップをしたときは皆、時間がなくなるほど話していた。普段話す機会がないとのことであった。

金田先生 対話が必要とのことであるが、地域の人には話す機会はあるのか。地域活動をしている人はそこで話しができるが、そうでない人はどうなのか。上牧について話す場はあるのか。

尾崎氏 地域によって祭り等のイベントをしているところもあるからそこで話はしているのではないか。

小玉氏 地域ごとでタウンミーティングをしているため、そこで上牧について話をしている。

藤村氏 しかし、そういう場に行く住民は少ないと思う。

渡邊氏 タウンミーティングも最初は町長と秘書課の人だけで来ていたが、質問に対する専門的な答えが必要なため、町からたくさん人が来るようになった。

尾崎氏 町にもシルバー大学を提案してみてもどうか。

小玉氏 大学生の力を借りてやっていこう。

尾崎氏 社協まつりでも畿央大学の学生さんに協力してもらった。

金田先生 シルバー大学もいいと思う。すでに講師がここに4名いる。シルバーの人個人の学びやいきいきする場になって、それが地域に返っていくようにする。勉強もしつつ、新たな担い手になってもらえるような場になればいいなと思う。出口のことまで考えたシルバー大学があるといい。大阪府が老人大学をして、元気な高齢者がいっぱい集まって勉強されたが、地域にかえると勉強している分、「他の人とは違う」と地域で浮いてしまったり、発揮する場がないということで悶々としていたようである。場づく

りは難しいということである。上牧でするなら、広域でしていくことを見据えることも必要。

藤村氏 近隣との連携は必要。連携なしではなにもできない。

岡本氏

- ・ 基盤が整っていないと活動はできない。
- ・ 担い手の問題。
- ・ 顔の見える関係をつくるための機会。

小玉氏 子ども会をやめた母親や 40 代の独身の方をスカウトし、地域デビューさせたい。

岡本氏 子どもをテーマにすることもいい。

金田先生 今回は 4 名の方と話しをして、課題や大学の話が出てきた。他にそういう意識のある人はまだたくさんいるのでは。

小玉氏 案を出して、呼びかけをしていかないといけない。

藤村氏 一般の人は、そもそも活動計画を知っている人が少ないのではないか。関わりがあると分かるが。

小玉氏 上牧のつながりの基盤をつくらないといけない。

岡本氏 地域ごとに切り口のテーマがある。

渡邊氏 小地域ネットワークが上牧全部にできるといい。自治会の役員は 1 年で変わるが、小地域ネットワークはコアな人がずっと続けている。災害の時は小地域ネットワークが中心となるのではないか。

小玉氏 災害は自治会が中心でないと。

北嶋氏 小地域ネットワークでも見守り活動ができているところもある。桜三会では広報を配布する際に見守り活動をされている。

渡邊氏 自治会役員は 1 年で変わる。ころころ変わるのは良くない。

小玉氏 そもそも自治会役員の決め方がおかしい。桜ヶ丘 3 丁目では、自治会長を我々 OB が支援している。

岡本氏 地域に小玉さんのような人がいてくれたらいいが。

小玉氏 引きこもり問題については、その人がどのようなことに興味をもっているかをリサ

一斉する。聞き出してどのようなイベントや活動をしたらよいかを考える。

岡本氏 ボランティアコーディネートの機能や小地域ネットワークが増えてほしいといったテーマがある。

渡邊氏 まずは、中心となる活動者が必要であるということ。

藤村氏 町歩きをしていると地域によって環境が違うことが分かる。ひとつの課題を上牧全体の課題として取り組むことが必要。

北嶋氏 一つの課題に対して話し合うミニ作業委員会のようなものをしていきたい。

テーマとしては、

- ・シルバー大学
- ・地域の基盤づくり
- ・担い手作り
- ・引きこもり